

畑作地帯におけるなたねの導入条件と栽培法

経営になたね栽培を導入できる収量水準は春まき180kg/10a、秋まき280kg/10a以上である、そのためには、適期播種が重要であり、春まきでは「キラリボシ」を4月下旬までに、秋まきでは「キザキノナタネ」を8月下旬～9月上旬に播種を行う。

導入条件

表1 なたねの生産費（単位：円/10a）

	十勝A町産 (春まき)	生産費調査 (H11年産)
物財費	17,970	18,785
労働費	4,618	12,012
生産費	22,588	30,797
全算入生産費	31,550	36,840
生産費調査を100とした場合	86	100
出荷費用（円/kg）	12.4	—
労働時間（時間/10a）	2.93	9.12
平均作付面積（a）	157	72
価格130円/kgの時に再生産を補償する収量水準（kg/10a）		
現状（2007年）	268	
現状よりも肥料費が1.6倍時	287	

注）生産費調査の欄
H11年産なたね生産費調査（青森県・鹿児島県）

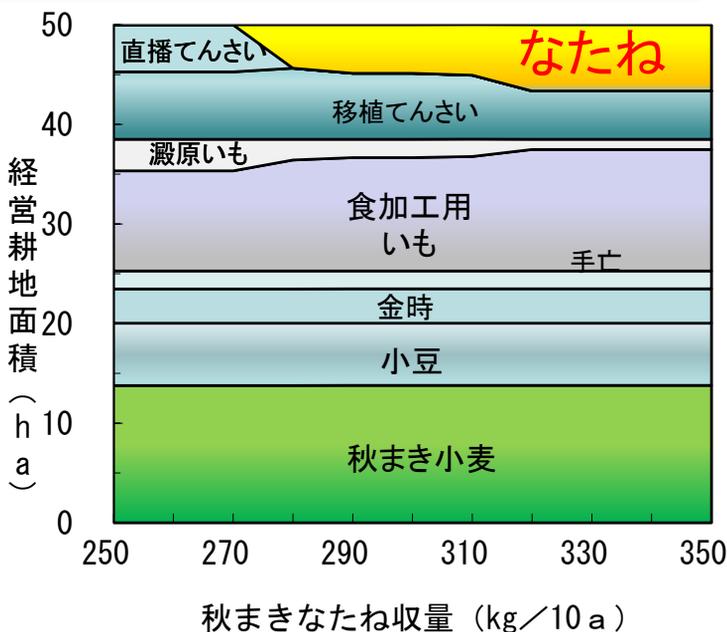


図1 なたねの収量水準毎に見た所得の最大化をもたらす作付構成
(経営面積50ha、雇用労働力1名の場合)

栽培法

品種

- 菌核病に強く、無エルシン酸品種を選択する。
- 春まき：「キラリボシ」 秋まき：「キザキノナタネ」

播種

- 適期播種が重要で、春まき：4月中旬～下旬、秋まき：8月下旬～9月上旬に播種する。

施肥

- 「北海道施肥ガイド2010」に示された施肥標準に準じる。

害虫

- 春まきではコナガ、ヨトウガ、オオモンシロチョウ、ニセダイコンアブラムシが多発することがあるので、適切な防除に努める。

病害

- 秋まきでは、雪腐病の発生する場合がありますので、適期播種、融雪促進に努める。

収穫

- 成熟期から10～15日後が機械収穫適期となる。刈り遅れは自然落粒、早刈りは脱穀選別損失の増加が著しいため、適期収穫に努める。

秋まき越冬前(11月中旬)



秋まき開花期(6月上旬)



秋まき収穫(8月中旬)

